

HDM推進会（第 16回）／ごみゼロネット推進会（第 38回）議事録

開催日： 2011年（H23年）8月 8日（月）10:00～11:50

場所： コミュニティサロン・はけ

出席者： 大橋、市原、杉本、平林、加藤、川村、多田、桐生（作成）

議題：

1. 休会が長かった事情の説明（桐生、大橋）

- (1) 行政との「HDM導入検討会」は2010年5月より8回行われたが、実行計画の確定に到っていない。検討された事項を振り返ると、①実証試験場所の選定、②試験設備を収納する建屋の建築確認の難しさ、③予算の獲得の難しさ、等がシリーズに検討され、この進行ペースで「HDM実証試験」に到るまでには2～3年を要することが予想されるスローペースでしか事が進まなかった。
- (2) 行政は我々との接触で「本件は市民が提案した案件なので、市民側から具体策装置や収集方法の実行計画）を出して欲しい」と再三発言している。この言葉に自分たちではアイデアを出さず、我々の提案のアラ探しと消極的対応に終始した行政との実りなき協同活動の問題点の全てが凝縮されている。最近では、某議員の質問に対し、石坂氏はHDMについては、協議会での提案に沿って行政と一緒に検討していくという形なので、行政が独自に検討や進行するものではない」「市長からの指示もないし、大橋氏からの連絡もないので、そのままにしている」と答えている。
- (3) 行政との「HDM導入検討会」は3/1本町暫定庁舎第一会議室での会合が最後となっている。行政と約束した会合「3月25日（金）10～12時／ジャノメ跡地缶処理工場で現地立会の後、桜並集会所で討議」は3・11に関する行政側の都合で流れた。この会合は大橋氏が提案した200kg/日能力の可搬式HDM-HSM200装置の設置場所としてジャノメ跡地缶処理工場が可能か否かを行政との立会の下で判断する会合であった。
- (4) 我々は以上の経緯を踏まえて、この延長線上には何の発展も期待できないとの判断せざるを得ない。行政の協力がなければ「HDM実証試験」が実現しないことは現実だが、行政との役割分担を見直して、行政がやるべき分野は行政の工夫と責任でやってもらうように、本件の推進戦略を練り直すことにした。このため、戦略なき無駄な「HDM導入検討会」開催を避け、各自のお考えの推進戦略を纏めるために本日の会合を持った。

2. 今後の実証試験の推進戦略（全員）

大橋案：若い世代のPTA役員たちから、学校給食の生ごみ処理をHDMでやりたいとの相談を受けている。現在の電力多消費型の乾燥方式から省エネ型の微生物処理への移行を模索している。この流れに沿って学校単位、或いは複数の学校の生ごみを処理する200kg/日能力程度のHDM処理装置による実証試験を進めたい。まず1基設置して実績を見極め、更に複数台に増やす漸進的な展開をしたい。将来の二枚橋HDM設備と繋がりを持った活動にしたい。

桐生案：HDMが実力を発揮できるのは1t/日レベルだと思う。将来の二枚橋でHDM設備は30t/日、菌床の体積約2,400m³になる。HDM-HSM200の菌床20m³は小さすぎ、大型化に役立つ実証試験に力不足である。せめて80m³は欲しいし、それなら実証試験時にも経済性をアピール（約2万円/t）できる。
①大橋氏の提案の規模をもっと大きくして各校の生ごみを集めて②学芸大学か東京農工大学の構内に試験装置を設置して集中処理する、③小金井市から研究費150万円程度を出して大学にHDMに関する技術的・社会的課題の研究をしてもらう。

加藤案：学校給食は最初は堆肥化でやって臭気の酷さと故障多発で止め、現在は乾燥型になっている。これをHDMのような消滅型にシフトするのは当然の流れである。学校給食だけでは市民のごみ減量にはならない。減量に繋がるものとして、①グ린タウン（対象470世帯中約70世帯のみ参加）のHDM化、②微生物処理としてHDM一つで追求せず、ホップ社等の二三の方式も併行してやりたい。そうでないと議員たちから随意契約だとして非難される恐れがある。

平林案：①ごみ総トン数を減らすために、紙とプラスチックは RPF にする、②グリンタウンや貫井町など乾燥型が設置されているが問題を抱えている場所で300 kg / 日能力程度のHDM 実証試験機を複数設置したい。

杉本案：グリンタウンでは吉川氏と相談しているが9月の自治会で乾燥型を取り替える議案が出るのでHDMの採用を加藤氏と共に働きかけている。

川村案：実際の執行は行政がやるので、行政にもっと圧力を掛けたい。HDMは燃やすごみを減量して他の自治体へのご迷惑を減らすものであるとのメッセージを強く発信したい。

多田案：RPF 化と学校給食のHDM化と大学への研究依頼をミックスした戦略で進めたい。

以上、各人からの提案を發表していただいた。本日はその集約化は図らず、議事録を見て各人の意見の調整をお願いし、次回の会議で討論して、行政に提案する実行計画へと集約したい。

次回に争点となりそうな項は、①陳情で HDM と取って固有名詞を出したのは正しかったか、②設置場所は学校か

グリンタウンか大学か、③大学を巻き込むことの是非、④ RPF 化を持ち出すタイミングが今か、等であろう。

3. ごみ問題に関する情報

- 我々と同じ時期に生ごみ処理検討を始めた小平市は既に分別収集を始めている。行政の姿勢によってこれだけの大きな時間の差が出る。(加藤)
- 乾燥型から微生物処理型への流れは各地で共通している。現在の機器を替えてもらう問題はある。公務員集宅でも小金井市は環境教育と絡めてそれをやろうとしている。(大橋)

4. 今後のHDM推進会の進め方

- (1) 定例会は毎月第一土曜日の 15 : 00 ~ 17 : 00、場所は「コミュニティサロン・はけ」とする。余程のことがない限り、大橋氏等が不在で変更しない。行政との会合(HDM 導入検討会)も定例会にした
- (2) 今月中に行政との初顔合わせ (行政の担当者が大きく変わった)を行う。
出席者は大橋、平林、杉 本の3名。
市原氏は母上の病状が深刻な状況にあるため、平林氏とコアメンバーを交替した。
30分程度の顔合わせを目的とした簡単な会合でよい。行政との連絡は大橋氏担当。
行政には「可搬式HDM-HSM200 がジャノメ跡地に置けるかとの課題を投げかけてある」とボールが行政側にあることをアピールしてもらってよい。
- (3) 次回会合で推進戦略が集約できた段階で、これまで協力してもらっている議員たちに、メールで報告する (本格的な報告会は具体的な進捗が実現してから)

以上

次回打合せ：9月3日 (土) 15:00~17:00 コミュニティサロン・はけ



